

中学生が自衛隊の職場体験 カレーの食べ比べも



ロープワーク体験（座間）



C-130Rの前で（厚木）



手信号体験（厚木）



相武臺碑の前で（座間）

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 栗野晃光3等陸佐）は、6月5日（木）および6日（金）の2日間にわたり、東海大学付属相模高等学校中等部3年生6名の職場体験を支援した。

この職場体験は、働くことの意義や目的を学び、自分の将来について考えることを目的とした同校の教育活動の一環であり、生徒たちは自衛隊をはじめ、地域のさまざまな職業現場で実際の仕事を体験した。

5日は陸上自衛隊座間駐屯地を訪問。昭和天皇が行幸された際に命名された「相武臺（そうぶだい）」の碑や、戦時中に天皇陛下のために整備された防空壕を見学し、駐屯地の歴史を学んだ。また、ロープワークの実習や、勤務・生活隊舎の見学などを通じて、陸上自衛隊の業務や生活を学んだ。

6日は海上自衛隊厚木航空基地において、航空機の進入許可を行うシミュレーター体験、手信号を用いた連絡機「LC-90」の始動・誘導、輸送機「C-130R」の機内見学などを行い、航空基地における業務を体験した。

両日とも駐屯地・基地にて隊員と同じ昼食を喫食したが、偶然にもメニューはいずれもカレーライスだった。生徒たちは「味が少し違う」「どちらもおいしい」と話しながら食べ比べを楽しんでいた。

参加した生徒からは、「ロープワークは日常生活でも役立つので参考になった」、「生活隊舎は、設備が整っていて清潔感があり驚いた」、「航空基地が防衛や災害派遣、国際平和協力活動などにおいて重要な役割を果たしていることが分かった」などの感想が寄せられ、自衛隊という職業を知る有意義な機会となった。

相模原地域事務所は、「今後も地域、学校との連携を深めながら職場体験を積極的に支援し、自衛隊への理解と関心を広げていきたい」としている。



体験喫食（左：座間、右：厚木）